

国際連帯税アドバイザー・チーム第1回会合 議事録

- ・日時：2019年2月25日（月）17時00分から18時30分
- ・場所：日本リザルツ会議室

◎石橋通宏・国際連帯税の創設を求める議員連盟事務局長あいさつ、趣旨等の提案

・今日は司会進行も兼ねる。まずお詫びだが国際連帯税創設を求める議員連盟（以下、議連と略）会長の自民党の衛藤征士郎衆議院議員が天皇在位祝いの会関係で出席できず、皆さんによろしくとのことであった。

・経過について。昨年7月26日の国際連帯税シンポジウムを、議連としてグローバル連帯税フォーラム（以下、フォーラムと略）と一緒に開催し、大変多くの内外関係者、議員の皆さんの参加があり、機運が盛り上がった。これをさらに大きな連帯、協力の流れにすべく各方面と相談し今回アドバイザー・チーム立ち上げとなった。引き続き我々議連も一所懸命に頑張っていくことをお誓いし、改めて今日ご出席いただいたことを心から感謝し冒頭の挨拶とさせていただきます。

・議事次第に沿って進める。まず「アドバイザー・チームの設立趣旨書」について提案する（添付の「議事次第・議案」を参照）。背景としては、議連も2008年に超党派で設立を長年にわたっての取組みをしてきた。現在衆参合計72名の国会議員が参加している。この間、税制改正大綱に国際連帯税の導入を盛り込むべく毎年取組みをしているが、この5、6年間は、税制改正大綱から国際連帯税という具体的な言及が落ちてしまった。まず再来年度の税制改正大綱に向けた展開をここからしっかりと始めていこうということで、改めてこの機会を持っている。

・今我々には大きな追い風がある。それは河野外務大臣が国際連帯税の導入に大変積極的な発言を内外において行っていることだ。ご自身で積極的な発言を国際的な舞台でされている。さらに今年、革新的資金調達メカニズムに関してのリーディング・グループの議長役を大臣自らが手を挙げて日本に持ってこられた。河野大臣が先頭に立っていることを我々は大きな糧にして、今年は何とんでも、再来年度の税制改正大綱に具体的に導入を盛り込むという決意で、色々な仕掛けを打って行きたい。一、このようなことをアドバイザー・チームの設立趣意に書いた。

・主な目的として、3点挙げている。1点目は、具体的な提言やご意見をいただきたいということ、2点目は、今後議連で総会、勉強会等行っていくが、皆さんにもご案内するので、ご都合のつく範囲内でご出席いただき、国会の状況なども共有していただきたいこと。3点目は、この会合のスタートにあたっては、議連のもとのアドバイザー・チームとして、スタートさせていただくということ。今後、色々な議論がある中で、アドバイザー・チームとして独自の活動や展開があってもいいのではないかと意見もあろうかと思うが、当面は議連の活動の中での様々なご意見、ご提言ということにさせていただきます。

・もう一つご相談がある。アドバイザー・チームなので、規約はいらないのではないかと話もあったが、規約案を用意した（添付の「議事次第・議案」を参照）。ゆるい組織体として、入会及び退会は自由でありオブザーバー参加も歓迎なので、広く参加していただいて情報共有を行っていくこととし、会費は取らない。設立趣意書案と規約案についてご意見を伺いたい。

◎青葉博雄・国際公務労連（PSI）東京事務所長

PSI、国際公務労連という、フランスに本部がある労働組合の国際団体の東京事務所の青葉です。次の4番の議題になるが、私の理解ではフォーラムがこのアドバイザー・チームの目的を果たすためにこれまで活動されてきたのだと思う。このアドバイザー・チームとフォーラムとの関係はどのようになるのか。

◎田中徹二・グローバル連帯税フォーラム代表理事

・ここにいる金子文夫先生（横浜市大名誉教授）と二人で代表理事を務めている田中です。フォーラムについて簡単に説明すると、国際連帯税を実現したいということで、活動を2004年頃からはじめ、

十数年この課題に取り組んできた。2006年にはフランス・パリで国際連帯税の世界的な旗揚げ総会があり、その時に日本のNGOも招待され参加してきた。議連の設立にも関わり、議連事務局の補佐などもしながら今日までやってきた。

・青葉さんの質問だが、フォーラムで全部引き受けられればベストだが、ここのところマンパワーが不足しており、フォーラムだけでは担いきれないという現実がある。なるべく多くの皆さんに参加していただきたいということだ。フォーラムはフォーラムとして引き続き独自の活動も行うが、このアドバイザー・チームの軸としても頑張っていきたいと思っている。

◎青葉博雄・国際公務労連（PSI）東京事務所長

・私が言いたかったのは、よく運動で屋上屋をどんどん作って訳が分からなくなるということがあるので、今後関係者に気を付けていただきたいということで、質問をさせていただいた。

◎田中徹二・フォーラム代表理事

・確かにその通り。私どもも何回かそれをやってきたので、そうならないよう肝に銘じたい。

◎谷本真邦・世界連邦運動事務局員

・私はフォーラムの理事も兼任しており、今回はっきりしておきたいのは、議連の総会においてこのアドバイザー・チーム設立を決めたということだ。私の認識では、議連に対するアドバイザー・チームであるということ、この認識を共有していただきたい。フォーラムはあくまでも民間有識者の会というもので、そのような区分けで考えていきたい。

◎石橋通宏・議連事務局長

・先ほど趣意書案でもお話しした通り、このアドバイザー・チームは議連の決定により立ち上げをして、議連のもとに作らせていただくということだ。フォーラムはあくまでフォーラムとして独立した、民間の皆さんの有志の場であり、そのような整理で当面は進めさせていただく。

◎今川昌之・武田薬品工業株式会社メディカル・渉外統括部長

・武田薬品の今川と申します。非常に面白そうなチームにお誘いいただきありがとうございます。この趣意書を見た時に、まず誰に対してのアドバイスなのかという疑問があったが、そこは今はっきりしました。もう一つ疑問がある。皆様各所属からいらっしゃっていますが、意見を述べる時にはその組織の代表というのではなく、あくまでも個人の有識者としての意見という理解でよろしいか。

◎石橋通宏・議連事務局長

・2点目は大事な点で、その通りで結構だ。有識者、専門家としてご意見、ご提言をいただくということで、そのように整理をさせていただく。1点目の誰に対するアドバイザーなのかという点は、まさに議員連盟に対するアドバイザーということを一義的にお願いします。また今日は外務省も参加しているが、当然我々は外務省とも協力、連携をしており、このことは外務省の要望を実現するという意味もあるので、我々議員イコール外務省に対するアドバイザーということで理解いただきたい。

・それでは、まず設立趣意書案についてご同意していただけるか（拍手）。こちらで進めさせていただく。もう一つ、規約案についてだが、重ねて規約案を採択すべきかどうかについて諮りたい。

◎田中徹二・フォーラム代表理事

・後で改めて報告するが、規約の中で「顧問」という項目が抜けていた。「顧問を設置できる」ということを入れたい。役員はいない。役員の代わりに事務局に自薦や他薦で入っていただく。

◎石橋通宏・議連事務局長

・今特に序列をつけて役員を置くということはせず、事務局が全て運営を行い、皆さんにフラットな立場でご参加していただく、また顧問を置くことができるということを付け加える。規約案をどうするか。これで採択しておくということでのよろしいか（拍手）。では、この趣意書と規約で進めさせていただきます（拍手）。

・今金子宏先生が到着された。このアドバイザー・チームを立ち上げさせていただくという趣旨についてご相談させていただいたところ、是非ということでご出席をいただいたことに深く感謝申し上げたい。先生は国際連帯税の導入を我が国で提唱された先駆者であり、この分野をずっと主導されてきた方だ。昨年文化勲章を受章されたというニュースを知り、我々としても大変嬉しい思いを共有させていただいた。金子先生からお話をいただく。

◎金子宏東京大学名誉教授

・ただ今ご紹介いただきました、金子でございます。予定の時間を過ぎて、遅れて参上いたしました、大変失礼いたしました。…（やや長いので、全文は最後のページに記載しています）

◎石橋通宏・議連事務局長

・金子先生、本当にありがとうございます。先般国際観光旅客税がスタートしましたがけれども、我々は、国境を越えた移動に係る税収は国際的な目的に使うべきだという先生の議論を、旅客税導入の際に展開した。次に議連創設にあたり初代会長であり、その後も我々現役に対する叱咤激励を行っている津島先生からご挨拶をいただく。

◎津島雄二・議連初代会長

・初代の会長をやりまして以来、もう十数年になるが、全く前へ進まない。おまけに航空運賃に課税するという話になったものの、それを観光のために使うということになってしまった。私は恥ずかしくて仕様が無い。

・今反省をすると、色々心ある方々がいい運動をしているが、その持って行き方がどうもうまくない。それから、私が長くいた自民党の組織も良くない。私は税調会長を山中貞則さんに次いで長く務めた訳だが、税調会のような実際の決定の場面にうまく繋ぐことができない。誰ができないか、私なりに意見はありますけれど。これから皆様の力で本当に効率の良い仕事をしていただきたい。そういう意味で私はいくらかアドバイスができる。

・今特に私が申し上げたいのは、日本の国際的な地位が非常に落ちていることだ。周りの国、あるいはアメリカ、EUの人達が日本をどう見ているかということ、私は明らかに評価が相対的に下がってきていると感じている。こういう時こそ世界人類のために日本はやる時はやるんだという実を見せなくては行けない。陰ながら皆様の活動の応援を行ってきたい。

◎石橋通宏・議連事務局長

・津島先生、是非今後ともご指導をお願いしたい。お二方から激励も含めてご挨拶をいただいた。次に「今後の当面の活動について」、フォーラムの田中さんから提起していただく。

◎田中徹二・フォーラム代表理事

・活動につき、①顧問について、②シンポジウム・会議開催への賛同と支援、③事務局の設置、④理論・制度設計部会の設置、を提案する（添付の「議事次第・議案」を参照）。②につき、9月ごろシンポジウム、11月ごろリーディング・グループ総会プレ会議を考えている。③、④は自薦・他薦で進めたい。事務局の役割だが、当面は9月のシンポジウムに向けて、企画、実務を行っていく。次回の会合は事務局レベルで開く。それを経て、3か月か4か月に1回というペースで全体会合の開催を考えている。（①の顧問については、津島先生や金子先生が今回固辞されたため再検討することに）

◎石橋通宏・議連事務局長

・次回のアドバイザー・チーム会合開催だが、今後の準備状況を踏まえて、G20が6月に予定されているので、その前に一度また集まっていただく。また、理論・制度設計部会だが、国際連帯税導入と言っても、何をどう導入して行くのかということについて、この間も寺島先生を中心に色々と具体的な提言をいただいているが、より精緻に理論武装をして、具体的な税目を含めた提言をしていただきたいという趣旨だ。

◎青葉博雄・国際公務労連（PSI）東京事務所長

・G20のプロセスについて、市民社会団体がいきなりG20に議題を持っていくことは不可能。G20の参画グループ、エンゲージメント・グループというのがあって、C（Citizen）20というのが4月21日から23日に開催される。まずはそのプロセスに入って行って、そこで作成するポリシー・パック（政策集）にこの議題をちゃんと入れ込む努力が必要。国際課税の問題はシェルパトラックではなくて財務トラックなので、財務トラックの担当者にはしっかりとアプローチを行うこと。

・C20が作成するポリシー・パックだが、そのためのワーキンググループは10個あり、国際連帯税の入るワーキンググループは国際財政構造(International Financial Architecture)と、グローバルヘルスだ。既にIFFFに関しては1パラグラフを入れているが、国際保健の方は稲場さんが共同議長なので早急に相談していただきたい。

◎津島雄二・議連初代会長

・大変に良い発言だ。今のように具体的な仕事を始めなくてはならない。今年できなければ、ずっとまた延びてしまう恐れがある。そのためには、財務省と外務省がもう少し表に出るべき。財務省は私も長くおりましたけれどもなかなか表に出にくいのが、実際に協力をさせて、そして表には外務省が出て決めるという段取りが必要だ。

◎石橋通宏・議連事務局長

・今提起されたことも含め、具体的に今後のG20の絡みも射程に入れ事務局で整理をして進めていく。その上で、記載通りシンポジウムの開催、それからリーディング・グループのプレ会議の開催を含めて、準備をしていくことになる。

・ところで、事務局でネットワークを作っていただく。今のような話の共有を進めて行かなくてはならないので、メーリングリストなりネット上の情報共有の場なりが必要だ。事務局で作成して皆さんと共有させていただく。

・それでは、「当面の活動」について確認をいただいた。この間の河野外務大臣による内外での発言、そして今年に向けた色々な活動計画も含めて、外務省甲木課長から報告していただく。

◎甲木浩太郎・外務省国際協力局地球規模課題総括課長

・税制改正にこの1年担当するようになって、最後は政治そのものであるというのを会得した。津島先生に具体的に相談できるところまで絵を描いて、その絵を着実に動かして行くのが自分の仕事だと先生の話聞きながら改めて感じた。

・今年に入ってからの大きな動きとして、革新的資金調達リーディング・グループの議長を引き受けたということがある。河野太郎大臣自身がこの件を強く自分のアジェンダと位置付け、しかも人道に使うということに思い入れがある。人道を中核に使っていくという意味では”Great minds think alike”と言うが、恐らく良く分かっている方が突き詰めて行くところなる、と。ちょうど週末のJCI（日本青年会議所）金沢会議に大臣と一緒に行ってまいって、JCIの会員の前にSDGsの重要性、それからその関連で新しい枠組みとしての国際連帯税の導入ということについて、聴衆の前で力強く話をした。国際的などころでは、革新的資金調達リーディング・グループ、それから、またG20のプロセスを最大限活用して行くことになる。

・ただ、これだけでは実現性は困難だ。国内の部分も並行して、国内の具体的なスキーム、つまり税

目や内容というものを至急検討し、春先以降具体化していく動きにも着手していきたい。理論・制度設計部会にそうそうたる方々の名前があるが、そういった動きと連動しながら、受益と負担の関係を含めてしっかりと、税の政治の世界に響くような形で、至急整理をして行く。

・このように国際論議、そして国内の論議を車の両輪として、進めて行くこと、それから役所で言えば6月頃に「骨太の方針」、「未来投資戦略」など政府の優先順位が高い様々な事柄について議論がされるので、そういう意味でも春から夏にかけてというのは非常に大事な時期だ。まさに皆様が今議論されているようなことについて大至急動き出せるようにしっかり汗をかいていきたい。

◎石橋通宏・議連事務局長

・今、課長に質問があれば受けたい。また今日は国際組織関係の皆様も多数出席しているので、関連することでこういうイベントもあるので是非共有をとということもあろうかと思うので、この場で発言等いただきたい。

◎滝澤三郎・国連UNHCR協会理事長

・甲木課長に伺いたい、開発のための革新的資金調達という場合の「開発」には、人道も入っているというように理解してよろしいか。

◎甲木浩太郎・地球規模課題総括課長

・実はそれを今私自分の中のテーマとしているところで、キーワードは人間の安全保障だ。人間の安全保障というのはまさに人道と開発が結びつく概念で、SDGs推進本部でも、12月に総理を始め全閣僚が官邸に集まって決定した文書の題名の次のところに入れたのが、「人間の安全保障の理念に基づき、世界の国づくり、人づくりを」という文言で、これはSDGs推進に人間の安全保障という概念を導入している訳だ。国際連帯税についての税制要望をしている文書の中にも、その概念を入れてあり、それは人道と開発の部分によって繋いでいくということ。では、開発の中でどの部分にどれだけこのスキームを使って行うかということは、この税の議論を進めて行く中でしっかりとサブスタンスの議論をしていくが、当然それは人間の安全保障と言う概念を媒介していくということになる。

・そういった中、様々なところでアドバイザー・チームまたは議連、あるいは個別の皆様と連携して対応していくことになる。うちの社長である河野太郎も、これは自分のアジェンダだということで掲げているので、社員としてしっかり支えるというのは自分の仕事だが、どのような経緯で金子宏先生が国際人道税を提唱されたのかということも含めて、営々たる理論的蓄積をうまく活用して、いよいよ月にロケットが飛びそうだと、あるいは飛ぶんだというところを今年迎えていきたい。

◎青葉博雄国際公務労連（PSI）東京事務所長

・実は4月22日、23日のC20では、通常並行してワークショップを行う。このワークショップのセミナーの応募状況がまだよくないようで、従って、手を挙げれば通る可能性もある。こういう世界各国から人がくる場で、この取組みを紹介できる非常に良い機会だ。是非事務局を中心に検討いただきたい。ちなみに、私は租税の関係でワークショップをやる用意があるので、その辺りノウハウの面でうまく連携しながらできればよい。

◎田口晶子国際労働機関（ILO）駐日代表

・ILOの駐日代表をしております、田口です。本日はこのような会合に声をかけていただきありがとうございます。ILOは石橋先生がILO議連の事務局長をしていたということだが、1919年に設立されて、今年100周年で色々なイベントが準備されている。その100周年の色々な会合の中で、こういうふうにしたら連携等ができるのではないかというご意見がある方がいらっしゃいましたら、また言っていただければそれを反映させていきたい。

◎根本かおる・国連広報センター所長

・国連広報センター所長の根本と申します。この度はこのような場にオブザーバーとして参加させていただき本当にありがとうございます。今年はSDGsの実施が始まって4年目で、グローバル・ストックテイキング（進捗状況の評価）、国連にとってもこれまでの実績、それからギャップというものをしっかりと洗い出す、事務総長の言葉を借りると、“Definitive moment”（その後を決定づける瞬間）と言っているが、まさに正念場の年だ。9月には、23日に気候サミットがあり、24-25日には4年に1度の首脳レベルでのSDGsサミットがある。さらに26日には開発資金についてのハイレベル・ダイアログというものもあり、ニューヨークでもこの話題は非常に注目を集めるので、そういった場も活用していただきたい。

・また、国連事務総長も今年は2回以上訪日するが、彼の頭の中で資金調達というのは非常に大きな課題なので、そういったところも活用していただきたい。

◎石橋通宏・議連事務局長

・甲木さん、何かありますか、具体的な国連関係の対応としては。

◎甲木浩太郎・地球規模課題総括課長

・国連の関係で言うと、①4月に毎年行っている開発資金会議、そしてG20のサミットを経て、②これも毎年行われている7月のSDGsの閣僚級のハイレベル政治フォーラム、③9月のSDGsサミットとハイレベルウィークの活用など、これらはいずれも必ず取り組んでいきたい。それから、④G20外相会合が11月にあるが、それを意識した国内でのリーディング・グループ総会に対する強い期待というものも今しかと受け止めたので、今年予定されている一連の様々な内外の行事をしっかりと活用していきたい。

◎井上裕史・大塚製薬株式会社国際部長

・大塚製薬の井上です。今、日本製薬団体連合会の今、日本製薬団体連合会の国際部長もしている。国際連帯税に関しては、こちらで4年位前の横浜市立大学の上村先生による講演が非常にインパクトがあって、それ以来個人的に興味を持った。それと、大塚では多剤耐性の結核に対する薬、デラマニドがあり、国際協力とマルチステークホルダーの取組みにどのように貢献するかが重要と考える。“Access to medicine”という言葉が一番鍵となるが、あとUHC、この2つのキーワードの中でどうやって製薬企業が国際協力を進めて行くかということが重要な鍵となる。この連帯税というものはUNITAIDなど感染症を中心に取組まれているので、非常に興味がある税だ。タケダさん、アステラスさん、シオノギさんも非常に良いお薬をお持ちなので、今後ともよろしくお願ひしたい。

◎堀越芳乃・国境なき医師団日本渉外担当シニアオフィサー

国境なき医師団はUNITAIDを通して実際国際連帯税を活用しており、C型肝炎、HIV、ストップ結核パートナーシップのフレームワークを以て各国で活動している。実際それらの国々においてそのようなフレームワークを使って薬の価格が下がるようにしているが、実際にそのフレームワークの中で薬を調達できている時は、その価格で薬を使えるが、国が発展してそのフレームワークから出してしまうと、自分たちの国で高い価格で薬を買わなくてはならないという問題があって、成長したことで薬の価格が高くなって困っている国があるので、移行がうまくいっていない国に対して国際的な支援が必要となっている。連帯税の議論はヨーロッパで盛んだが、日本ではまだまだなので、UHCやフレームワークの中でも、人道的に見てよいことに対してお金がつくようになっていったらいい。日本政府とももっと話していけたらと思う。

◎石橋通宏・議連事務局長

・今日は1時間半にわたりご議論いただいた。今日皆さんが確認した当面の活動計画に則り、今後も活動を進めていきたい。それでは、第1回アドバイザー・チームの会合は終わりにさせていただく。ご出席いただきました金子先生には改めて感謝申し上げたい。

金子宏東京大学名誉教授のごあいさつ

ただ今ご紹介いただきました、金子でございます。予定の時間を過ぎて、遅れて参上いたしました、大変失礼いたしました。ここに、先輩であり長年の友人である津島雄二さんがご一緒してくれました。昨年文化勲章を拝受いたしました、非常に光栄なことと存じております。これは、租税法という法律、これは他の分野と比べると新しい分野でございますけれども、その分野の理論と体系を構築したという事で、拝受いたしました。本当に光栄なことと存じております。

それから、今ご紹介がありました、国際連帯税に関しまして、私は国際人道税と呼んでおりますが、どちらも国際航空運賃に課税をするという点では共通でございます。1998年に日本の雑誌に国際人道税という名称で国際航空運賃に課税したらどうかという提案を含んだエッセイを書きました。そして、たまたま日本に来ておられたハーバード大学のロースクールのオールドマン先生に、こういうものを書いたと話しました。すると、国際航空運賃に課税するという提案は、まだ誰もしていないから、是非とも英語で発表するよという事で、早速アメリカのインターナショナル・タクゼーションに関する雑誌に掲載する手はずを整えてくださいました。私の拙い英語で英訳しましたが、オールドマン先生の弟子で、私の長年の知り合いのラムザイヤー教授が私の英語を見て、必要な訂正を施してくれて、ラムザイヤーさんが翻訳してくれたところ、見違えるほど内容が良くなりました。そして、それがアメリカの雑誌に載りました。

2006年でしたか、2000年代に入ってから、フランスの旧植民地の色々な人道問題を援助しているNGOを通じて、シラクさん（注：当時のジャック・シラク仏大統領）に対して強力に国際人道税を導入して、国際航空運賃に課税をすべきだと、そしてフランスの旧植民地においてマラリア根絶などの費用に充てる為に導入したらどうかと働きかけをしたようであります。シラクさんは最初反対しておりましたけれども、説得の結果導入されたようであります。フランスで導入されたものが、フランスの旧植民地に使うという事で、UNICEFなど国際組織に寄付をするという私の提案とは違い、フランス政府の手で使うということになったようです。その後、いくつかの国と連帯して、共同で色々な事業に使っているようであります（注：UNITAID・国際医薬品購入ファシリティという国際機関を設立し、途上国の感染症対策のための医薬品等の購入を行う）。

私は、国際航空運賃というのはどこの国も消費税をかけることができないという理由で、つまり国外の消費でありますから、消費税の対象にならないためどこの国も課税してこなかったのでありますけれども、色々な宗教対立とか人種間の紛争とか、それによって子ども達が悲惨な目に遭っているという状況に照らして、今までどこの国も課税できないとして課税してこなかった国際航空運賃に課税をして、その税収をUNICEFに寄付して、UNICEFの手で色々な国でひどい目に遭っている子ども達の救済に充てたらどうかと考えた訳であります。

いくつかの国で、シラクさんが採用した国際連帯税という制度を採用している訳ですけれども、先ほど申しましたように、私の提案とは徴収した国が使うのか、それを国際組織に寄付をして国際組織の手で色々な、例えば国境なき医師団とか、国際的な活躍をしている、経験のある組織にお金を出してそしてそれを子ども達の救済に充ててもらおうのかという違いがあるわけでありましてけれども、私は今の国際連帯税がやがて税収を各国が使うのではなく、国際組織に使ってもらおうというようになっていくといいなと考えています。

ですから、国際連帯税と国際人道税は決して違うものではなくて、私が同種の租税が将来的には徐々に国際人道税に発展してゆくことを期待している訳であります。国際連帯税に反対するわけではなく、むしろその発展に少しでもお役に立つことができればというふうに思っている次第でございます。歳を取ってしまいましたけれども、できる限りでご協力をしていきたいと思っております。ちょっと長くなりましたけれども、以上でございます。どうぞよろしく願いいたします。（大きな拍手）

●文責：田中徹二（グローバル連帯税フォーラム）、梅木俊秀（日本リザルツ）